

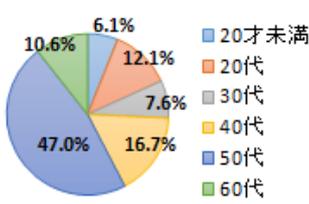
へき地・小規模校教育推進フォーラム

「地方の教師教育と関係機関の連携による戦略的教員養成」参加者アンケート結果集計

参加者：135名、回答数66件

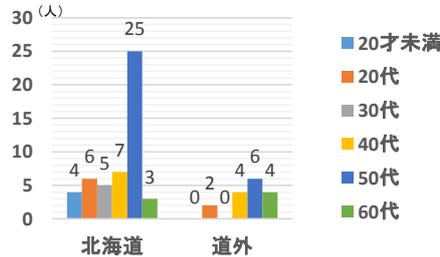
1. ご自身について

年代別割合

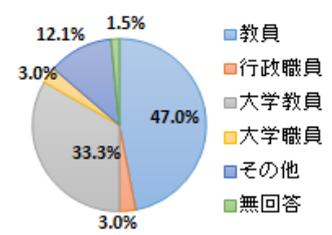


男:48人, 女17人, 無回答1

年代別居住地

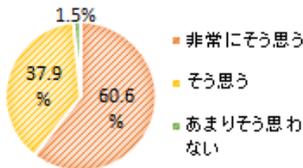


職業別割合

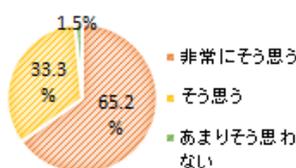


2. 本日のフォーラムについて以下の点をどのようにお感じになりましたか？

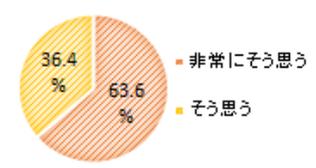
(1) 基調講演の内容が今後の自身の仕事内容に役立った。



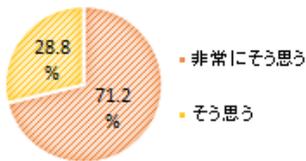
(2) シンポジウムの内容が今後の自身の仕事内容に役立った。



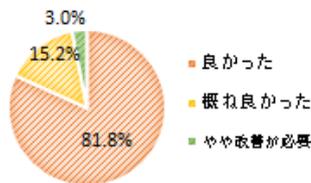
(3) 地方での新たな人材養成の役割と可能性について、理解が深まった。



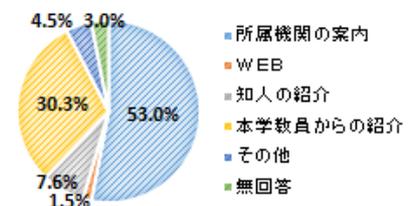
(4) へき地・小規模校教育について、今後への期待が高まった。



(5) 本フォーラム全体について



3. 本フォーラムの開催を最初にどこで知りましたか？



フォーラムについてのご意見・ご感想 (全コメント)

- ぜひともまたの機会があれば参加したいです。欧州のへき地、フィンランド等のツンドラ地域での学校の取り組みetcを視察したりしており、大変参考になりました。
- へき地で勤務することに対してネガティブなイメージはないのですが、家が釧路市内、主人が市内勤務、子供が市内の学校となると、自分の環境として難しいなと感じています。冬道の通勤も不安です。双方向を使いながらの研修は大賛成です!!遠くに行かずとも様々な研修を受けられるようなシステムが整備されることを望みます。
- 今後の学校形態等の変化に対応しながら、「新しい価値や仕組み」を生み出す視点をもっていかなければいけないことなどが実感できた。
- 教員の人事の部分でどの学校にどのような先生が必要になるのかはしっかりと把握しておくことが必要であると思いました
- 本学においてもへき地・小規模・複式教育に係る教員養成として「小規模・複式教育実習カリキュラム」を作っています。しかし、その内容が貴学のように本質的・機能的・構造的なプログラムとなっはならず、現有の実習の一部に組み込んだり、集中講義という形で希望者のみに実施されたりしております。今後、内容の充実、構造的な見直しを図っていきたく思いますので、機会があればご指導賜りたいと思っています。
- それぞれの立場からのお話をいただき、とても有意義な時間となりました。今後も行政、養成機関、学校現場が連携を深めていかなければ、と改めて感じました。ありがとうございました。

7. 町づくり、地域づくりと学校経営がマッチしなければ、実らない。学校内から、地域や世界を分析して、連携を進めたい。コミスク、カリキュラムマネジメント、教員の資質向上に、校長がリーダーシップを発揮したい。

8. 地域性を考えれば、このようなフォーラムは、もっと前に行われるべきと思いました。逆にいうと、釧路大の取り組みが実に先見性があったということと改めて思いました。今後、附小に複式学級ができる時代が来るのでしょうか？

9. 行政・研究機関・大学からへき地小規模校について話をいただいた。自分が現在働いている学校は小規模校ではないが、今後子供の人数が少なくなるという話から自分事として小規模校の取り組みについて学ぶことができた。

10. 実際の日頃の授業(へき地小規模校特有の・複式の)についての話や工夫、特別な取り組みなどがもっとほしかった。一番大切な部分であると考えます。へき地実習に行った学生がどう成長したかなど生の声が聞きたい。また、学生が見た興味深い授業の紹介なども。

11. へき地・小規模教育の大切さ、その使命の大きさを感じました。へき地・小規模校教育によって、「教師が育つ」、「学生が育つ」、そして何より、よりよい実践によって「子どもが育つ」ことになることが理解できました。へき地・小規模教育の研究・実践を行うこと(継続すること)が大切であると思いました。

12. 修士論文のテーマがへき地教育なので、参加させていただきました。自分自身へき地校で1年半勤務したこともあり、実体験と結びつく内容でわかりやすかったです。飛行機の関係で遅れて入室したのですが、席が埋まっていたので、開始時間を考慮していただけるとありがたいです。

13. へき地・小規模教育の課題が、今日の教育政策(特に教員養成・研修政策)とどのように関連するかが明確にされたうえで、へき地・小規模校教育の実態ならびにへき地・小規模校で活躍する教員養成・研修の実際と今後の展望が示され、非常に有意義な機会となりました。今回のフォーラムが、個々の現場(学校、大学、教育行政)の抱える課題を、相互の連携で解決していくためのきっかけとなることを願っています。

14. へき地校に在職している教員です。へき地校が抱える悩みを気にしていましたが、本フォーラムで、へき地校がもつ強みを知り、マイナスをプラスに変えていこうと思いました。小さな学校で育った子たちは、進学と同時に大きな学校で苦勞すると思いましたが、決してそうとばかりはいえず、柿崎先生がおっしゃった通り、大きな学校でも存在感を放つ子もいるんだと思い、そういう子たちに育てたい！と強く思いました。ありがとうございました。

15. 教員を育てていくのに、いろいろな視点・観点からアプローチしていかなければならないということを実感しました。現場で育てるからいいんだ、という驕りを強く反省して、より連携を強めていきたいと感じました。

16. へき地・小規模校が抱えている教育課題に適切に対応して解決していけるような教員としての資質・能力の育成といった性格・位置付けに留まらず、へき地小規模校での教育実践をフィールドとして、どのような学校においても本来必要とされる教員としての資質・能力の育成(養成・研修)という積極的な意義付けを感じることができた。「戦略的」というキーワードが大切だと改めて感じました。

17. 北海道と私も宮崎県の抱える現状に違いはあるものの、へき地・小規模校の教育の可能性についてぼんやりと考えていたことが明確になったり、エビデンスを示していただいたりして、重要性を改めて認識できました。本学でも組織的にへき地・小規模校教育を進めていくことに自信と必要性を感じさせていただき、力を得た気がいたします。予想をはるかに上回る、充実したフォーラムで、もっと多くの(全国の)教育関係者に参加してほしいと思いました。

18. 今年度初めて複式学級担任になり、他の先生に教えていただきながら日々子どもたちの指導をしています。自分が学生の頃はへき地実習は体験していませんでしたし、そのような視点で教育にあたらうという思いもありませんでした。小規模で複式の担任になって、様々なことを考え実践していかなければいけないと思いつつ、どうしたらよいかと思うことも多かったのですが、今日わかったことや資料を活用させていただいて、また子どもたちのために頑張りたいと思いました。

19. 本日はありがとうございました。マイナスからプラスへのパラダイム・シフトというお言葉が強く心に残りました。へき地・小規模校教育から大きな学びがあると考えています。人材育成の役割で可能性を考えていきたいと思えます。

20. へき地・小規模校だからこそできることがたくさんあるのだということがよくわかりました。また、それは市街地の学校にも役立つと、とても感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

21. 釧路の特色をどう生かして教育に反映していくか具体的なイメージができた。今後に向けた期待がもてた。

22. 「社会に開かれた教育課程」の実現に近づくために、さまざまな立場の方々が集まれたのは非常に有意義だと感じました。ぜひ参加できなかった方向けの発信をお願いしたいところです。フロアからの質問にもあったように、教育の課題は、同時に地域の課題であるはずで、次回の開催時には、市長、町長(もしくは教育長)の立場で、ご登壇いただき、事例研究を行えるようなセッティングをお願いできればありがたいです。

| |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>23. とても面白かったです。私は旭川校志望ですが、グループ学習にへき地教育の考えが活きるということは、考えたこともありませんでした。今回で自分の教育論の視点がとても広がりました。今回は貴重な体験をありがとうございました。</p> |
| <p>24. 学生ながら参加させていただきましたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。</p> |
| <p>25. へき地のまだ知らないことや、深みを知ることができました。本フォーラムを通じて、よりへき地・小規模校について学びたいという意欲を持つことができました。</p> |
| <p>26. 柳澤課長の基調講演は、「これまで」と「これから」を考える大きな機会となりました。子供たちに身に付けさせたい資質・能力はそのまま教師に、教師が身に付けなくてはいけないということを痛感しました。「これまで」の中にある成果やメリットを、今後「これから」にどうつなげていくべきなのか、考え続けていきたいと思います。大変勉強になるフォーラムでした。主催者の皆様、運営ありがとうございました。</p> |
| <p>27. 個に応じた学びという今求められている教育をへき地教育の研究を基にしながら、自己研さんを積んでいきたいと考えることができました。基調講演で最新の情報を知ることができて、よかった。</p> |
| <p>28. 柿崎先生のお話の中で、指導案を事前にHPにUPするという提案が「なるほど！」と思いました。研究会前という点が新しい発想でした。また、前の学年にノートを残しておいたものを次の学年に見せるというような工夫も初めて知りました。へき地・小規模校だけではなく、規模の大きな学校でも生かせるのではないかと思います。勉強になりました。ありがとうございました。</p> |
| <p>29. 教大協へき地小規模校教育部門の発足として、たくさんの参加者があり、盛会になり、おめでとうございます。今回は、行政、へき研、大学と総括的なことが中心で、学ぶこともなかったのですが、へき地小規模校教育の実践、実習の具体と、その意義を深めたいと感じました。</p> |
| <p>30. へき地教育とのかかわりを一人でも多くの人々の理解を広げることが大切です。その先に教育の未来と希望を創出する役割が我々にはあります。</p> |
| <p>31. 今日は大変多くの学びがありました。ありがとうございました。今回のフォーラムは教員養成や教師教育ということであったが、次回はへき地における学び、学力の養成等についてぜひ聞いてみたいと思いました。</p> |
| <p>32. 勤務校で来週教育大を推薦入試で受験する生徒を参加させました。高校3年生には少々難しい内容ではありましたがへき地校での取り組み事例など、大変参考になったようです。ありがとうございました。</p> |
| <p>33. へき地に興味を持ち、昨年実習をしました。それ以降、「へき地」「複式」などのキーワードを見ると話を聞いてみたい、学んでみたいと思い参加しました。来年から北海道で教員として働くので、勉強になりました。まずどのようなことができるのか、どんな知識を持つべきか分かりました。大学で学んだことがより詳しく、コンパクトに聞くことができ、課題等も明確になったのでよかったです。全体討議では、他大学の先生の考えをきくことができ、視野を広げなければならないと思うことができ、これからより学ぶ必要があることも、より気付けたのでよかったです。</p> |
| <p>34. 十勝でも現在は複式校が多く、複式教育について研究ができる時に様々な点から体制を整えていきたいと考えています。それでないと、一町村一校の学校が複式にもなってくるのが予想されるので…。京都の先生から出ていた地域おこしも大切だと考えます。今後ともよろしく願いいたします。</p> |
| <p>35. 大変素晴らしい内容でした。北村所長の道全体を見た上での今後の適配の方向性や、川前先生の教員育成の視点からの話から大変わかりやすく、明日からの学校づくりに役立てたいと感じました。道の施策として、へき地小規模校の強みを生かし残していくことで、地域連携やコミスクの方向を探っていくことが出来れば、と願っています。</p> |
| <p>36. 川前先生の報告は教員養成に関わる者として示唆を受けました。もう少し報告の時間があっても良かったと思います。</p> |
| <p>37. へき地教育の現状と課題が数値を基に示されていたので、大変参考になりました。へき地体験実習の受け入れキャパが町村で少ないような気がしました。予算や教官の人数も限られているとは思いますが、全道の町村と大学がwinwinの関係になれる方策が必要だなと感じました。へき地校に若い実習生が来てくれることは、子ども達にとって大きな喜びです。</p> |
| <p>38. 大学での学生育成指標もあるのでしょうか？今の学生さんらが教育実習に来ていただけるので、様子はよくわかります。大変前向きで優秀な学生さんを育てられている大学のこのカリキュラムあってなのですね。すばらしい学生さんをこれからも育ててあげてください。</p> |
| <p>39. どなたも丁寧な御所見、御提案をお示しくださったと受けとめました。御専門、御立場もきちんとふまえておられて誠実にお考えくださってうれしく感じました。ありがとうございました。</p> |
| <p>40. 学校が小規模校化する中、へき地のみならず、都市部における「学年1学級校」での教員の資料向上が大きな課題であることを再確認しました。管理職としてOJT,off-JTのシステム作りを早急に進めていきたいと思います。また、ベテランの知恵をいかに若年層に伝えるかも大きなテーマです。</p> |